

令和5年度 第2回秦野市自殺対策推進委員会 議事要旨

日時：令和5年10月20日（木）午後2時～午後3時半

場所：秦野市役所本庁舎3階 3A会議室

出欠状況：委員 出席11名、欠席者1名

事務局 5名

傍聴者：0名

■ 秦野市自殺対策推進協議会 参加者名簿（敬称省略）

番号	区分	所属・役職	氏名	出欠
1	学識経験	東海大学医学部総合診療学系精神科学 教授	山本 賢司	出席
2	医療関係	一般社団法人 秦野伊勢原医師会 丹沢病院 院長	関口 剛	出席
3	福祉関係	社会福祉法人 秦野市社会福祉協議会 事務局長	梶山 孝夫	出席
4	経済労働関係	秦野市工場協会 日興電機工業株式会社 業務部総務課長	森 勝利	出席
5		西湘地域連合 UMC・Hエレクトロニクス労働組合 議長代行	堀澤 守	出席
6	教育関係	東海大学学長室（健康推進担当） 課長	辻 昭	出席
7		秦野市中学校長会 本町中学校 校長	山田 浩之	出席
8	警察関係	神奈川県秦野警察署 生活安全課 課長	久保 武次	出席
9	民間団体	社会福祉法人 横浜いのちの電話 事務局長	庄子 徳義	出席
10	司法関係	神奈川県弁護士会 古淵法律事務所 弁護士	甲斐田 沙織	欠席
11	行政関係	神奈川県精神保健福祉センター 相談課 課長	石井 利樹	出席
12		神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター 保健予防課 課長	柴田 元子	出席

事務局

1	行政	秦野市こども健康部 部長	古尾谷 明美	出席
2		秦野市こども健康部健康づくり課 課長	渋谷 ちづる	出席
3		秦野市こども健康部健康づくり課 課長代理	服部 聡	出席
4		秦野市こども健康部健康づくり課 主査	有延 清美	出席
5		秦野市こども健康部健康づくり課 保健師	肥後 里佳	出席

■ 会議次第：

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事
 - (1) 第2期秦野市自殺対策計画の素案について
- 4 その他
- 5 閉会

■ 事前配布資料

- ・ 第2期秦野市自殺対策計画素案
- ・ はだの自殺対策計画第2期計画改定の要旨
- ・ 第1回秦野市自殺対策推進委員会の質問について

■当日配布資料

- ・ 次第
- ・ 名簿
- ・ 資料 1 秦野市の自殺者数・自殺死亡率の推移
- ・ 資料 2 秦野市消防本部救急出場件数及び自損行為救急出動調べ
- ・ 資料 3 第 2 期秦野市自殺対策計画 新計画名称（案）
- ・ 資料 4 第 2 期秦野市自殺対策計画素案に対する意見シート

■議事要旨：

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事
 - (1) 第 2 期秦野市自殺対策計画の素案について
- 4 その他
- 5 議事

議事（1）第 2 期秦野市自殺対策計画の素案について	
事務局	<p>【事務局から以下について説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回委員会の議事に関する質問への回答及び追加説明 ・ 資料 1）秦野市の自殺者数・自殺死亡率の推移 ・ 資料 2）秦野市消防本部救急出場件数及び自損行為救急出動調べ ・ はだの自殺対策計画第 2 期計画改定の要旨について ・ 第 2 期秦野市自殺対策計画素案について
山本委員長	<p>それでは、各章毎に検討を進めたいと思います。</p> <p>第 1 章には、第 1 期計画の評価に関する内容も含まれますので、重点的に検討していきたいと思います。第 1 章について何かご質問やご意見はございませんか。前回の委員会の追加説明に関するご質問でも構いません。</p>
柴田委員	<p>取組分野「社会的つながり（ソーシャルネットワークの強化）」重点目標「1. 地域におけるネットワークの強化」（P.35）の中で、自殺未遂者に並んで、生活困窮者が上がってくる根拠は何ですか。（P.24）「原因別 5 か年自殺割合」グラフでは、秦野市の自殺者における原因は、健康問題が最も多い状況です。</p>
事務局	<p>経済・生活問題を自殺のハイリスク要因として認識しているからです。（P.24）「原因別 5 か年自殺割合」グラフでは、自殺原因の中でも上位 3 番に入っています。多様で複合的な原因が絡み合い、最終的に自殺に至るという認識が一般的です。生活困窮イコール経済問題と言えないケースもありますが、自殺の原因については、うつ状態など多くの方に健康問題が該当しますが、失職や退職などを経て、最終的に多重債務等</p>

	の経済問題が出てくることが多いことから、その観点で掲載をしています。
石井委員	(P.3)「1 自殺の基本認識と自殺対策の本質」について、文章内に似通った内容があります。少し整理されるとよいのではないですか。
山本委員長	文言を整理するとよいということでしょうか。
石井委員	そうです。
柴田委員	(P.13) 取組分野Ⅲ-1「生きづらさを抱える人への支援」について、相談窓口の業務単体でそのことについて対応しているわけではなく、市として、様々な業務で複合的に対応していることを掲載できるとよいのではないですか。
山本委員長	続いて、第2章の検討に移ります。 何か、ご質問やご意見はございませんか。
石井委員	第2期計画の体系図について、主に第4章に取組内容を掲載するのであれば、第4章にもこの体系図を掲載したほうがよいのではないですか。もしくは、第4章だけに掲載をするほうがよいと思います。
山本委員長	第2章について、わかりやすく記載していてよいと思いますが、事務局はいかがですか。
事務局	第1章に関連するところですが、計画の目標値について、第1期計画では自殺死亡率14.7%以下と設定していました。 第2期計画では、「誰も自殺に追い込まれることのない秦野市」の実現を目指して取組むことを踏まえて、目標値を自殺死亡率ゼロに変更しようと考えています。これについてご意見をいただけますか。
関口委員	行政が出す目標値やその表現方法として、自殺死亡率ゼロというのは、国や県の計画を踏まえるといかがでしょうか。
事務局	国や県の取組計画では、自殺死亡率を目標値として設定しています。また、他市町村の計画についても、国や都道府県の計画に準ずる形で、自殺死亡率について数値目標値を出しているところが大半です。ただし、一部の自治体ですが目標値を自殺死亡率ゼロと設定しているところもありましたので、秦野市におきましても、第2期計画から目標値をゼロに設定したいと考えていました。
関口委員	表現として、目標値を自殺死亡率ゼロと書くと、他から逸脱してしまうように見える場合もあると思いますが、前回の委員会でもお話ししましたが、自殺死亡率ゼロに設定することは良いと思います。
山本委員長	同じように、目標値を自殺死亡率ゼロと設定している自治体もあるということですね。
梶山委員	国や県の計画で、自殺死亡率の目標値に根拠はありますか。
山本委員長	昔から、日本の自殺対策は、北欧やヨーロッパを参考にしています。それらの国では、自殺死亡率を何%下げるといような数値目標で取り組んだと経緯があるのではないですか。国として、その数値に明確な根

	<p>拠があるわけではないのではないかと思います。</p>
石井委員	<p>基本的には、国や県、市町村などどの計画でも自殺死亡率はゼロにしたいと思っています。ただし、具体性のある目標を考えると、数値を設定しなくてはならない。自殺死亡率ゼロという取組は応援したいと思います。</p>
委員長	<p>目標値は、自殺死亡率ゼロで良いと思います。秦野市は、年度によって自殺死亡率の著しい変動はありますか。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
山本委員長	<p>市町村によっては、年度によるばらつきが大きいところもあります。そのような市町村では数値目標はあった方がいいと思いますが、秦野市の場合は、自殺死亡率を徐々に減らしてゼロを目指すという考え方は良いと思います。</p> <p>ただし、計画の各取組が実際にどの程度達成できるのか、また、その取組でどれだけ自殺者数を減らすことができるのか、その経過を見ていれないといけないと思います。</p>
山本委員長	<p>第3章の検討に移ります。</p> <p>何か、ご質問やご意見はございませんか。</p>
事務局	<p>秦野市健康増進計画検討委員会の中で、計画に掲載されているデータ標記について指摘がありました。市民アンケート調査のサンプル数が少ないという意見や、グラフ等の集計内に無回答が含まれているという不手際がありました。市民アンケートの集計方法について、具体的な年齢を記載していないとの指摘もありました。この件について、本計画にも関連する部分がありますので、事務局で精査して、改めてご報告します。</p>
庄子委員	<p>県と比較して秦野市の高齢者の自殺者割合が多いことについて、秦野市の人口は、高齢者の割合が多いですか。それとも、高齢者人口はそこまで多くないが、高齢者の自殺者割合だけが高いのでしょうか。</p>
事務局	<p>高齢化率は全体の31%まで高まっています。</p>
庄子委員	<p>高齢者人口が多ければ、高齢者の自殺者割合が高まるのは当然です。</p>
関口委員	<p>私の記憶では、県内の各市町村別の高齢化率を比較したときに、秦野市の高齢者割合は突出していなかったと思います。</p>
山本委員長	<p>いのち支える自殺対策推進センターから、秦野市宛てに年代別の自殺者割合の分析は送付されていますか。</p>
事務局	<p>(P26) 60歳以上の自殺割合のグラフは、いのち支える自殺対策推進センターから送付されたデータから作成しました。その他に、高齢者の自殺について追加情報があれば、次回の委員会でご報告します。</p>
森委員	<p>人口動態統計には、外国人は含まれていませんか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
森委員	<p>技能実習生などの外国人は、生活に困窮して自殺に追い込まれるということはないということですか。</p>

事務局	<p>秦野市健康増進計画検討委員会の中でも、外国籍の方も秦野市民であるという認識を持つことが大切であるという話がありました。例えば、秦野市では、子どもで虫歯があるのは外国の方が多いということがわかっています。生活習慣の違いもあるかもしれませんが、生活困窮が原因で治療に結びついていない可能性もあります。素案では、主に秦野市在住者の統計を掲載していますが、今後、良い資料があれば報告します。</p>
森委員	<p>警察統計に秦野市在住の外国人の自殺者数は含まれますか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
森委員	<p>では、人口動態統計と警察統計を比較すると良いと思います。</p>
柴田委員	<p>(P.24) 市、県、全国の棒グラフの色合いにはっきりと違いをつけるともう少し見やすくなると思います。色合いのメリハリや、柄をつけるなど、工夫していただけると良いですね。</p>
石井委員	<p>(P.21) 自殺死亡率のグラフは、自殺死者数のグラフではありませんか。</p> <p>また、(P.22) 市、県、全国の男女別割合は、令和3年のグラフですが、これが令和4年では数値がかなり変わると思います。他のグラフでは過去5年間の平均値や長期間の推移を掲載しているものもあり、統一性を図ると良いと思います。</p> <p>(P.24) 原因別5か年自殺割合のグラフでは、元になる統計は令和4年度から集計方法を変えていますので、その情報を記載した方が良いと思います。自殺に至る過程では、原因はひとつではなく複数の様々な問題があり、そのひとつに健康問題があるということを明記した方が良いと思います。わかりやすく説明するために、第1章の「自殺の危機要因イメージ図」を、このグラフの下に記載するとイメージが付きやすいと思います。</p>
堀澤委員	<p>(P.23) 下段のグラフについて、自殺死亡率の数値に誤りがありますので修正してください。</p>
山本委員長	<p>第4章の検討に移ります。第1期計画と第2期計画で取組内容の違いがわかりづらいので、変更した箇所、変更していない箇所について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>第2期計画は、第1期計画から大幅な変更はありませんが、取組を強化したり内容を拡大した点についてご説明します。</p> <p>第1期計画では、地域での見守り体制の構築や相談しやすい環境整備、普及啓発が主な取組でしたが、第2期計画では、これらの取組を強化及び拡大します。(P.43)「多世代にわたる自殺対策の展開」では、これまで、児童や生徒に対する対策は学校でのいじめ対策を中心に記載していましたが、前回の委員会でご指摘があったように、LGBTQに関する悩みを持つ若者への対策を盛り込み、市全体で取り組んでいきます。また、女性への自殺対策は強化すべき課題であり、第1期計画では、</p>

	<p>取組の対象者を妊産婦としていたが、第2期計画からは、女性への支援として、妊産婦などの子育て中の女性だけではなく、ひとり親や、社会との関わりが乏しいような引きこもり状態の方についても対策として盛り込んでいけるように検討したいと考えています。</p> <p>(P.49)「遺された人々への支援」では、市役所へ死亡届を提出時にご遺族へ情報提供ができるように体制を整備します。</p> <p>(P.52) 精神障害等のある人への支援については、「等」を追加して対象者を拡大して取組の強化を図ります。自殺未遂者などハイリスク者への支援については、実態把握と分析が必要であると考えており、市だけでなく警察や消防、医療機関など関係機関とそれらの情報を共有することを取組としました。</p>
山本委員長	<p>関係機関との情報共有や連携の強化、支援体制の整備などの取組が必要であるのは、自殺対策に限ったことではありませんが、秦野市の様々な取組がネットワークとして機能しているのか、また、必要な連携がとれているのかについて、計画内でどのように表現するのかは難しい部分です。このような関係機関とのネットワークの構築や連携強化について記載しているのはどの部分ですか。</p>
事務局	<p>(P.35) 自殺対策に関する庁内連絡会議や、当委員会などの取組が該当します。庁内連絡会議は年1回以上開催しており、庁内各課の取組のひとつひとつが自殺対策につながるということを認識してもらう場として、また、自殺対策に関わる情報を共有したり庁内の連携強化を推進する場としています。</p>
山本委員長	<p>それらの取組について、さらに強化する必要はありませんか。</p>
事務局	<p>現状の取組で十分かという、そうではないと思います。今後に向けて検討します。</p>
山本委員長	<p>秦野市として、連携を強化していこうという流れはありませんか。その一環として、様々な施策を展開していると思っていました。</p>
柴田委員	<p>健康増進計画と自殺対策計画はどのように連携していますか。</p>
事務局	<p>健康増進計画の中にも、こころの健康や自殺対策に関する内容は含まれています。</p>
山本委員長	<p>自殺対策に関する庁内連絡会議を活用して庁内の連携強化を図るのであればそれでも良いと思いますが、様々な困難を抱える市民への支援について、庁内の各課がそれぞれ別々のところで取り組んでいる印象を受けます。</p> <p>自殺対策に限定した事業だけではなく、様々な困難に対する秦野市としての大きな枠組みの中で連携できる体制があれば、その一部分として自殺対策を強化していこうと考えた方が推進しやすいと思います。</p>
事務局	<p>当委員会や庁内連絡会議について、市全体の取組体制の中でどのような位置付けになっているか確認します。ただし、自殺対策だけを切り離</p>

	<p>して取組を考えるとということはありません。福祉や医療との関係など、他課主催の会議体との関連について等、情報を整理していきます。</p>
庄子委員	<p>「いのちの電話」に相談電話をかけてこられる方は、「女性の勤労者」が多いです。ご本人が正社員であっても男性との賃金の差があったり、独身世帯の場合には様々な支援の対象に該当しないなどの相談電話も多いです。</p> <p>勤労者からの相談の中には女性特有の悩みがあり、女性からの相談の中には勤労者特有の悩みをお話される場合があります。また、どこにも属していないような方もいます。</p>
事務局	<p>その通りです。秦野市は「女性とこどもが住みやすいまちづくり」というコンセプトを掲げて取組を強化しています。色々な面で、どこにも属していないような、はざまにいる方も多いと思いますので、しっかりと取組を強化していきたいと思います。</p>
辻委員	<p>女性という表記については、市としてどのようにお考えですか。計画内の男性・女性という表記に関して、ダイバーシティの実現を考えると、女性という表記が果たして良いのでしょうか。世の中の流れと本質的な問題の両方を考えると、どのように表記を統一するのは難しいところであると思いますがご検討いただきたい。</p>
山田委員	<p>神奈川県人権推進指針の項目の中に、「女性」がありますので、「女性」の表記が良いのではないかと思います。</p>
山本委員長	<p>昨今の自殺者の傾向から考えますと、女性の自殺者数が増えているので、あえて「女性」という表記のままで良いと思います。「女性に対する自殺対策」という大きな枠組みはそのまま残し、個別に対応する場合には「性」を特化しない表記にすると良いと思います。</p>
関口委員	<p>(P.52) 重点目標「1 “生きる支援” の充実」で、「精神障害のある人」から「精神障害等のある人」に変更した経緯を教えてください。</p>
事務局	<p>自殺未遂者への支援が自殺対策として重要であることは認識しています。ただし、自殺未遂者支援をひとつの項目として明記しようとする、自殺未遂者への支援や取組を、関係各課等が自分たちに関わる取組ではないととらえてしまわないかなどの懸念もあり、あえて大きな取組の枠組みに盛り込みました。どのような標記方法が良いか検討します。</p>
関口委員	<p>自殺未遂者の項目を削り、「精神障害者等」にまとめると、自殺未遂者が精神障害者という誤った認識をされるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>自殺未遂者に対する支援や対策が、行政として確立できていません。実態や実情を十分に把握できておらず、どのような部署等がどのように連携をとることで自殺未遂者の支援につなげられるのか、現状では計画内に明記するのは難しい状況です。</p> <p>リスクのある方を救いたいと考えていますが、十分な取組や支援の整備ができていません。決して自殺未遂者を精神障害者に含めたいわけでは</p>

	<p>はありませんので、ふさわしい標記の仕方についてご意見をいただきたい。</p>
山本委員長	<p>自殺未遂者として特定せずに、「自殺ハイリスク者」と言うような表現で幅を利かせるとよいのではないのでしょうか。</p>
山田委員	<p>女性の人権、障害者の人権という項目が神奈川県人権推進指針にありますので、障害者という表現ではどうでしょうか。ただし、自殺ハイリスク者を指すようなピンポイントの表記にはなりません。</p>
久保委員	<p>(P.52) 体制整備を進める方策を検討します、とは、体制を決めるということですか、または、話し合いを進めるということですか。</p> <p>警察では自殺未遂者に対応する場面は多いですが、同居家族がおらず家族の支援がない方など、その後のフォローにつなげることができないことが多いです。警察は、その現場での対応以上のことはできないため、連携体制が整備されれば、警察としても次につなぐところがあると助かります。この体制整備に関わる取組の方向性をお示しいただきたい。</p>
事務局	<p>行政としても、自殺未遂者の支援体制の整備について、その必要性は理解しています。第2期計画の遂行期間で取組が可能な、具体性のある内容を記載することが必要であると考えまして、体制整備に向けて、まずは、実態を調査し現状を把握した上で、その情報を基に、関係機関で体制整備を構築する方法について議論するところまでを取組計画として明記しました。</p>
久保委員	<p>秦野市の現状の取組であれば、庁内連絡会議や当委員会で体制整備について議論するのですか。それとも、別に委員会などを立ち上げるのですか。</p>
事務局	<p>どのような場で議論するのか、具体的なことが決まっていません。庁内連絡会議には消防も含まれますので、関係各課等の意見も確認したうえで、第2期計画の中で推進していきたいと考えています。</p>
石井委員	<p>(P.37) ソーシャル・キャピタルの図がありますが、「ソーシャルキャピタル」という言葉は計画の中で使われていますか。</p>
事務局	<p>(P.35) ソーシャルネットワークという記載をしている部分に対応するものとして掲載しています。言い回しが異なりますので、統一します。</p>
石井委員	<p>孤立しない・させない居場所づくりについて、関連事業は2課のものだけなのか。</p>
事務局	<p>第1期計画では、高齢者や不登校児童に関連する2課の事業を掲載していました。現在各課で取り組んでいる事業の中に、子どもや子育て中の方の地域の居場所づくりに関連する事業がありますので、第2期計画では、幅広い対象者にとって居場所となるような取組や事業について追加します。</p>
石井委員	<p>(P.42 など)「基本の方向性」の目標値の達成については、期限を記載をした方がよいと思います。</p>

次第「4. その他」

事務局	<p>【事務局から説明】</p> <ul style="list-style-type: none">・第2期計画から新たな計画名に変更することについて 後日、意見シートにてご意見等をご提出いただいても構いません。
梶山委員	自殺死亡率の目標値をゼロにするということで、これから取組内容のハードルが上がると思います。庁内での調整も厳しいと思いますが、この委員会での総意があり、秦野市の取組としても求められているということ踏まえて調整を進めると、推進しやすいと思いますので頑張りたいと思います。
山本委員長	委員の方から何かご質問等がございますか。無いようでしたら、これをもちまして、第2回秦野市自殺対策推進委員会の議事は終了します。お疲れ様でした。事務局へお返します。
事務局	長時間にわたり、山本委員長、委員の皆様、御審議いただき、ありがとうございました。本日、皆様からいただいた御意見をまとめ最終案を策定したいと思います。また、委員の皆様には意見シートをお配りしておりますので、後日で結構ですので、第2期計画についてご意見等ございましたら事務局までお知らせください。引き続き御協力をどうぞよろしくお願いいたします。これをもちまして、令和5年度第2回自殺対策推進委員会を閉会します。ありがとうございました。(閉会)